

川前地区

(宮城県登米市) 第1回まち交大賞 テーマ賞

計画期間 平成17年～20年
面積 43.3ha
交付対象事業費 1,550百万円
市人口 91,007人(地区内人口 1,085人)

ポイント 生涯学習活動と市民文化形成の場として魅力ある中心市街地の創造

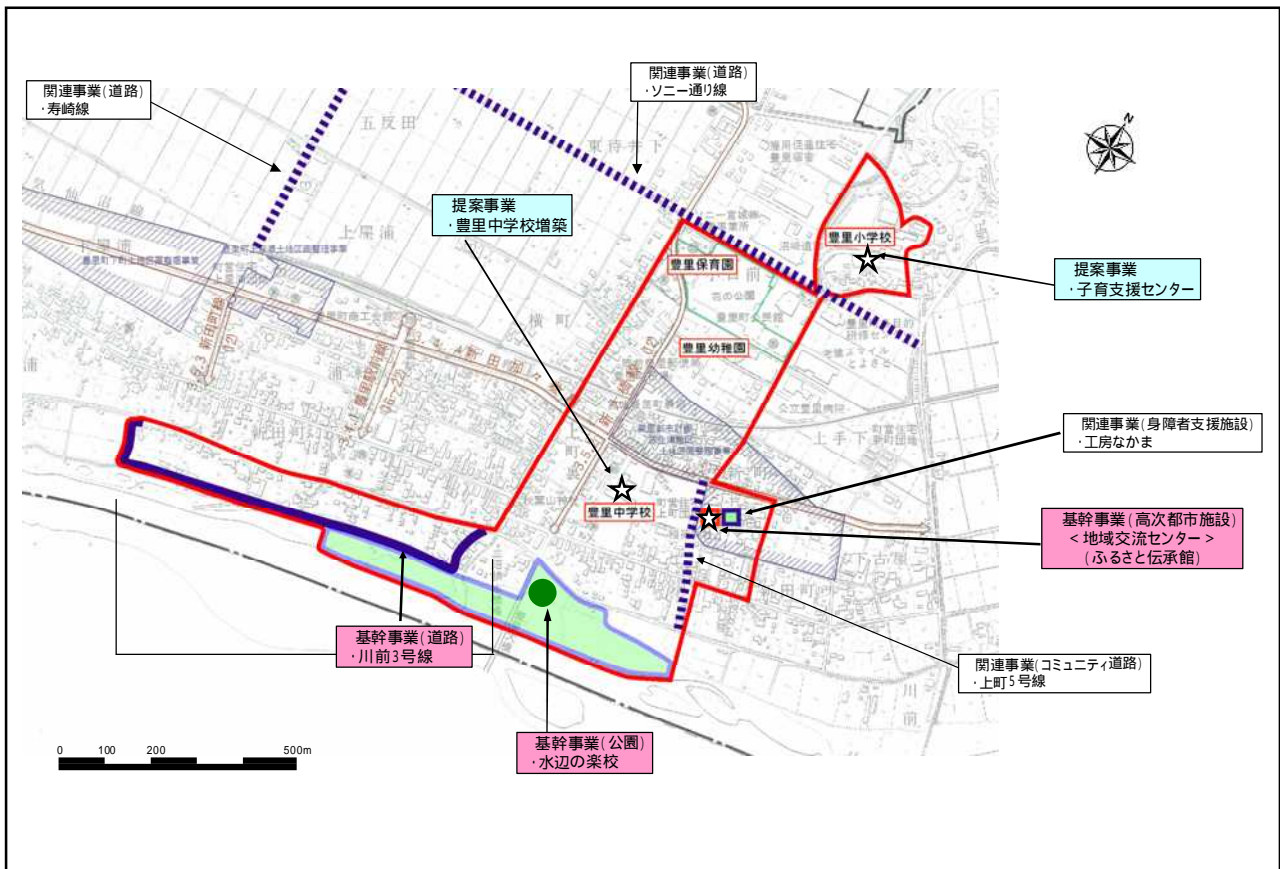
地区概要 小中一貫教育の推進を含む事業の実施により学校教育・社会教育の充実と文化・アメニティ施設の充実を図り、その基盤となる中心市街地の活性化を目指す。

目標 児童・生徒の豊かな人間性と知性の向上、生涯学習の充実と伝統文化・文化財の保全継承を図る。

指標 整備後における延べ雇用者数の増加、来街者数の増加、芸術文化活動参加者数など地域の活性化が図られる効果を目指した。

| | | |
|----------------|------|-------------|
| 雇用者数の増加 | - | 550人 (H20) |
| 来街者数の増加 | - | 7500人 (H20) |
| 文化・芸術活動参加者数の増加 | 150人 | 225人 (H20) |

事業内容 基幹事業 (450百万円) 道路(幅員6.0m、延長1,020m)、公園(1箇所78,000㎡)、地域交流センター(1箇所293㎡)
提案事業 (1,100百万円) 中学校増築(1箇所3,608㎡)、子育て支援施設整備(1箇所998㎡)



地区の現況と課題

教育・文化

小中一貫教育システム及び社会教育の受け皿となる教育施設、文化施設の拡充及び再整備が必要である。

子育て支援

子供を持つ人々にとって生活安心の基となる子育て支援体制が不足しており、町民との協働による支援の仕組み整備が必要である。

北上川の活用

ふるさと教育の場、町の活力の基盤として中心市街地を通る旧北上川を最大限活用し、歴史を学ぶ公園等を整備し、快適な環境と町の魅力を創出する必要がある。



提案事業の特徴

小中一貫教育特区推進のための中学校増築事業

平成15年度の「小中一貫教育特区」の指定により、小中学校の統合と児童生徒の一貫した教育プログラムによる豊かな人間性と知性の向上を図るため、豊里中学校を増築し、豊里小学校と豊里中学校を統合する。

子育て支援センターの整備

当地域における人口の減少と少子高齢化は、子育て支援体制が不足する状況となっていることから、小中統合学校の完成後、豊里小学校の空き教室を利用し、幼児保育機能と子育て支援機能を有する子育て支援センターを整備する。

計画策定プロセス

今後の官民の連携

計画に掲げる整備方針は、子育て支援から学校教育、生涯学習にいたる初期段階であり、対象事業終了後も家庭、地域、地元企業等の連携強化を図っていく。

登米市長布施孝尚氏のコメント

登米市川前地区は、登米市の南東部、旧北上川の右岸に位置しています。旧北上川の河川敷を利用した「水辺の楽校」の整備を行なうとともに、地域に残された伝統文化や様々な文化・芸術活動の拠点となる「地域交流センター」、構造改革特区において認定された小中一貫教育を推進するための「豊里中学校の増築事業」など生涯学習活動と市民の文化形成の場として魅力ある中心市街地の形成を目標に掲げて事業に取り組んでいます。地域の自然環境の活用や人的資源を掘り起こすことが重要と考えています。